

る。

特に総合科学技術会議においては、過去の衛星地球観測に対する構造的反省点と改善要望が指摘され、議論されている。中間報告によれば、第一に「利用ニーズ主導の統合された観測システムの構築」、次に「国際的な観測協力の構築と我が国の独自性確保とリーダーシップ発揮」、最後には「アジアオセアニア地域における連携の強化による観測体制の確立」の3点が強調されている。また、地球観測サミットにおける文部科学大臣演説においては、地球観測における総計9分野のうち、日本は特に「地球温暖化・炭素循環変動」「気候変動・水循環変動」「災害の防止・軽減」の3分野に貢献することを約束している。これを受け、この分野に関連する衛星観測についての役割を果たすため、JAXAでは将来計画として、すでに計画されているALOS(災害関連)、GOSAT(温暖化、炭素循環関連)、GPM/DPR(水循環)に加えて、失ったADEOS-IIによる気候変動分野についての観測能力を取り戻すべく、GCOM(Global Change Observation Mission)とEarthCARE(Earth Cloud, Aerosol and Radiation Explorer)という衛星計画を検討中である。GCOMはADEOS-IIに搭載されていたAMSARとGLIの後継センサを別々の中型衛星に搭載して打ち上げる計画、またEarthCAREは欧州と共同で雲・エアロゾルの3次元分布と放射収支を同時計測しようとするものであ

る。また、更に将来の検討については静止軌道を使用し、時間変化の早い大気汚染の状況や災害に役立つ観測の可能性について検討を行っている。

#### 4.3 今後の衛星地球観測と科学

最後にこうした昨今の状況を総括して、今後の衛星地球観測と科学の関係について述べたい。衛星地球観測は技術的に成熟しつつあり、近年までのように技術開発した衛星/センサを使って、衛星観測の可能性を科学により探求するという技術開発主目的の段階から離れつつある。衛星観測は社会利益への還元を求められつつあり、今後は、社会的要求に明確に応えられなければ巨大な資金を要する計画を実現させることは難しい。しかしながらそうした実用的な観測に対しても科学はそれを支えているという事実を認識すべきであり、地球科学の発展と広範で継続的な支持無くしてはそうしたシステムも成立しない。現在、衛星観測は世界的にも構造の転換を求められている時期にある。衛星観測システムを開発する宇宙機関、それを使って社会に利益をもたらす利用機関、そしてそうした観測を支え、また結果を利用し、研究を深めることで、更なる発展させていく研究コミュニティの間に緊密な関係を保ちつつ、日本が世界に対して貢献、あるいは先導していくことのできるような将来計画を議論していくことが、将来の社会と科学・技術の持続的発展に重要なことであると思う。



## 第8回大学婦人協会「守田科学研究奨励賞」受賞候補者募集

- 趣旨：本賞は、化学教育者・故守田純子氏から遺贈された資金をもとにして、自然科学を専門とする女性科学者の研究を奨励し、科学の発展に貢献する人材を育成することを目的として、1998年に設けられたものです。
- 対象：自然科学分野において、優れた研究成果をあげており、将来、科学の発展に貢献することが期待される40歳未満（応募締切日現在）の女性科学者を対象としています。
- 授賞件数：年2件以内。賞状及び副賞50万円を贈呈します。
- 提出書類：(1) 推薦状、(2) 履歴書、(3) 研究業績リスト、(4) 主要な論文別刷5編以内（各3部）、(5) 研究題目とその概要及び今後の展望と抱負を記したものを。
- 応募締切日：2005年11月30日（水）（必着）
- 書類送付先及び連絡先：社団法人 大学婦人協会  
〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6-101  
Tel；03-3358-2882, Fax；03-3358-2889  
URL；<http://www.jauw.org/>